

五月二十九日町會ヲ開キ右案ヲ可決シテ之ヲ公式ニ發表セリ。而テ改メテ調停會ハ開カズシテ直接當事者双方ニ就キ其ノ意嚮ヲ確メタルニ、双方共右案ヲ承認シ左記條項ヲ以テ調停成立シ、六月二日小作官立會ノ下ニ高砂町役場ニ小作人全部ヲ集合セシメ、作離料ノ授受ヲ了シ別紙ノ通りノ覺書及領收書ヲ取り交ハシ事件ハ茲ニ完全ニ解決ヲ見タリ。

調停條項

- 一 高砂町ハ關係土地三十一町九反六畝八歩ニ對シ反當三十七圓ノ割合ヲ以テ金一萬一千八百二十五圓八十六錢ノ作離料ヲ關係各小作人ニ支給スルコト
- 二 鐘淵紡績株式會社ハ關係土地三十一町九反六畝八歩ニ對シ反當八十圓ノ割合ヲ以テ金二萬五千六十九圓四十九錢ノ作離料ヲ關係各小作人ニ支給スルコト
- 三 鐘淵紡績株式會社ハ昭和九年度ニ於テ收得スヘキ小作料總計二百六十二石九斗八升六合ハ之ヲ棒引キトスルコト
- 四 關係土地ハ直ニ鐘紡ニ返還スルコト
- 五 本件關係土地ノ間ニ點在スル會社以外ノ個人所有地一町五反歩ニ對シテモ鐘紡ニ於テ之ヲ購入引上ノ際ハ本條項ニ準シ會社及町ヨリ作離料ヲ支給スルコト
- 六 本件關係土地及前項記載ノ一町五反歩ノ土地ノ關係小作人全部ニ對シ高砂町ヨリ金一封(三千圓)及酒肴料(二百圓)ヲ支給スルコト

覺書

今回鐘淵紡績株式會社カ工場増設ノ爲其ノ所有小作地引上ニ付同會社ヨリ(イ)昭和七年度小作料及(ロ)小作反別一反歩ニ付金八十圓ノ作離料、町ヨリ(ハ)小作反別一反歩ニ付金三十七圓ノ離農補償金ノ外(ニ)前記土地及同社所有土地間ニ介在スル他人所有土地ニシテ同社カ工場用地ニ充ツル爲買收見込土地ノ小作人全部ニ對シ金一封(三千圓)交付ヲ受ケ別途正ニ受領シ同社所有土地一切ノ小作關係ヲ解消仕候ニ就テハ今後買收見込土地ヲ同社ニ於テ買收シタル場合ハ(イ)(ロ)(ハ)ノ條件ヲ以テ一切ノ小作關係ヲ解消スヘキコトヲ約諾ス

昭和八年六月二日

右 小作代表

氏 名 印

六名連署

領收證

一金 圓 錢也

拙者從來貴社御所有地字 番地

田 反 畝 步外 筆此反別 町 反 畝 步

ヲ小作ノ爲借用致居候處今回貴社ニ於テ同土地御入用ノ趣承リ右借用地全部返還致候就テハ其ノ作離涙金トシテ頭書ノ金額御給與ニ預リ正ニ受領仕候

然ル上ハ右土地及貴社御所有ノ井溝竝ニ池等ニハ今後一際立入ラサルハ勿論將來ニ亘リ同土地ニ

關シ何等ノ要求ヲ爲サヌ又其ノ他御迷惑ヲ相掛ケサル事茲ニ誓約致候

尙右地域内ニアル拙者ニ屬スル物件及造營物ハ全部撤去致候處萬一撤去殘シノモノハ貴社ニ於テ

勝手ニ御處分相成候トモ何等苦情申間敷候

右爲後日立會人連署仕候

昭和八年六月二日

高砂町農人町

本 人 氏 名 印

高 砂 町

立會人 氏 名 印

鐘淵紡績株式會社

社 長 殿

一五 兵庫縣朝來郡竹田町竹田 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和七年十二月二十五日

調停着手 昭和八年一月十三日

解 決 昭和八年一月二十日

關係人員 地 主 九人 小作人 九十人

關係土地 田 五十町步

(一) 爭議ノ概況

昭和七年度稻作ハ開花期ニ於ケル天候不順ニ因リ收穫少ク且米質モ亦不良ナリシタメ小作料一時的減額ヲ要求セルモノニシテ双方ノ主張ハ左ノ如シ。

小作人ノ主張

天候不良ニ因リ減收著シキヲ以テ小作料ヲ二割減額シ、尙米質モ惡ク生産検査ノ結果ハ受檢數量ノ約四割ハ不合格トナレルガ如キ有様ナルヲ以テ、合格米ヲ以テ小作料ヲ支拂ヒタルモノニ付テハ從

來ノ獎勵米ハ其ノ倍額ヲ支給セラレ度シ。
地主ノ主張

昭和七年度稻作ハ減收シタリト雖、小作人ノ謂フガ如キ程度ニ非ザルヲ以テ、小作料一割以上ノ減額ヲ認メズ、又獎勵米ニ付テハ増額スル要ナシ。

以上ノ如ク双方ノ主張ニハ大ナル懸隔アリテ當事者間ノ交渉ニ於テハ解決ノ見込ナク成行ニ任セツツアリシガ、地方有志小林某外二名之ヲ憂慮シテ双方間ニ介在シ代表者ヲ招致シテ種々解決ニ斡旋シタレドモ、地主ノ或者ト調停者中一名ト豫テヨリ感情上融和ヲ缺キ事毎ニ反對的態度ニアリシ關係上、今回ノ調停ニ於テモ地主ハ調停者ノ提言ヲ快ク容レザル爲、調停斡旋者モ感情上面白カラズ遂ニ調停ヲ斷念スルニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

右ノ如キ事情ナリシ爲小作官ハ法外調停ニ據ラントシ係争地竹田町々長ト打合ヲ爲シタル處、同町長ノ意見トシテハ曩ニ調停ニ立チタル小林某外二名ヲ關與セシムルニ非ズンバ、却テ妨害的態度ニ出ヅルヤ計リ難キヲ以テ、右ノ者ヲ先ヅ第一線ニ立タシメ小作官ハ背後ニアリテ指導シ若シ調停成ラザル時小作官ノ調停ヲ煩ハスコトトシタシ、若シ小作官ガ當初ヨリ調停ノ矢面ニ立チ萬一調停成立セザル時ハ其ノ處置ニ窮スト謂フニアリ。

蓋シ當地方ニハ概シテ激烈ナル争議ナキ爲、争議ノ表面化ヲ憂フルベク町長ノ意見モ當然ト思考シ其ノ方針ヲ以テ進行スルコトトシ先ヅ地主小作人代表者ヲ招致シ曩ニ調停ヲ試ミタル有志ノ者ガ引續キ調停スベキヲ以テ双方誠意ヲ以テ之ニ當ル様諒解ヲ求メ、他方有志調停者ヲ町役場ニ招致シテ調停方ヲ交渉シ、尙他ニ助役足立某、部落役員三名計四名ヲ増加シ以上七名ガ極力調停ニ努ムルコトトナレリ。小作官及町長ハ之ヲ指導鞭撻スルコトトシ直ニ調停ニ着手セリ、而テ調停者ハ一月十三日ヨリ翌十四日午前三時迄引續キ調停ヲ進メ、其ノ間小作官及町長モ亦同地ニ滞在シテ調停ノ應援鞭撻ニ努メタルガ、小作人ハ獎勵米増額ノ要求ヲ撤回シタルノミニシテ小作料ハ依然トシテ二割減額ヲ固守シ、而モ小作人ニハ隣接部落久世田小作人ノ應援アリテ其ノ主張ヲ容易ニ譲ラズ、他方地主ハ最高一割減額ノ主張ヲ一割五分迄讓歩シタルモ右以上ノ減免ハ一步モ認メズト強硬ナル態度ヲ採リ、到底即時解決ノ見込ナク止ムナク調停延期ヲ爲シタリ。

而テ當地方ニ於ケル諸取引ノ清算期ナル舊節季ガ一月二十五日ナル爲、此ノ期日迄ニ解決シ小作料ノ受渡ヲ爲サシムル必要ヲ認メ、次回期日ヲ一月二十日正午ト定メ書面ヲ以テ關係者ニ其ノ旨通知シタル處、村内調停者ハ其ノ前日十九日夜調停ヲ開始シ、翌二十日午前三時頃漸ク成立ノ曙光ヲ認メ、小作官ノ到着シタル時ニハ既ニ解決ヲ見ルニ至リタリ。

(三) 結 末

成立シタル調停條項ハ左ノ如シ。

調 停 條 項

- 一 關係小作人ハ關係地主ニ對シ地主ヨリ賃借中ノ田地ニ對スル昭和七年小作料ハ契約小作料ヨリ二割ヲ差控ヘ其ノ八割相當額ヲ昭和八年一月二十一日限り地主宅ニ持參支拂フコト
- 一 地主ハ小作人カ右八割ノ小作料ヲ持參セル時、内拂ノ故ヲ以テ其ノ受領ヲ拒ムコトヲ得ス

〔附記〕

右二割ハ條項ニ於テ減額スルコトヲ明記セズ内拂ノ形式トスレ共コハ地主ノ希望ニヨルモノニシテ事實上ハ減額ヲ承認シ居ルモノナリ

一六 奈良縣生駒郡都跡村大字佐紀 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和八年一月六日

調停着手 昭和八年九月二十七日

解 決 昭和八年九月二十八日

關係人員 地主 一人 小作人 七十七人

關係土地 田 二十二町六反二畝二十二步

(一) 爭議ノ概況

大字佐紀ニ於テハ本件地主ハ最大ニシテ且最モ強硬ナル地主ナルヲ以テ、大正十三年以降小作紛議ノ生ズルヤ小作側ハ先ヅ本件地主ヲ目標トシテ交渉ヲ試ミ、其ノ解決スルヤ一般地主ハ之ニ倣フヲ常トセリ。昭和七年度小作料ニ付テハ、小作側ハ同年度ハ開花期ノ天候不順ノ爲減收シタルヲ理由トシテ減免要求ヲナスコトトシ、昭和八年一月六日契約小作料ノ約六割ヲ内納シタル後三割ノ減額方ヲ要求シタル處、地主ハ五分引ヲ申出デ之以上ハ應ズル能ハズト主張セリ。小作側ハ地主ノ強硬振リヲ知悉スルヲ以テ引續キ交渉ヲ進ムルモ徒爾ナルヲ察シ、隣接各大字ノ減免問題解決ヲ俟テ徐ロニ再交渉ヲナスコトトセリ。

而テ三月中、本件大字ヲ除ク村内各大字ノ減免問題ハ全部解決ヲ見タルヲ以テ、四月上旬小作側ハ改メテ六名ノ代表者ヲ選ビ各大字平均減免率一割九分ヲ以テ要求貫徹ヲ期シ再交渉ヲ開始セリ。

之ヨリ先同大字内ノ村會議員三名ハ爭議ノ成行ヲ注視シツツアリシガ五月上旬ニ至リ居中調停ヲ爲スベク折衝ヲ試ミタリ、地主ハ初メ當初ノ主張ヲ持シテ動かザリシガ終ニ一割五厘ヲ減額スル旨言明スルニ至レリ。然シナガラ小作側ニ於テハ本大字ハ他大字ニ比シ小作料高率ナレバ他大字ヨリ低率ナル減免率ノ如キハ一顧ノ要ナシトナシ、小作人組合規約ヲ作成シテ益々結束ヲ固メ飽ク迄要求貫徹ニ邁進スベク誓ヒ、再三全員總會ヲ開キテ氣勢ヲ擧ゲ、其ノ間屢々日本農民組合總同盟ノ勸誘モアリ、

爭議ハ漸ク深刻化セントセリ。

此ノ情勢ヲ憂慮シ前記三村議ハ六月末再ビ斡旋ニ努メタル結果、地主ハ讓歩シテ一割五厘減ノ外ニ小作人全員ニ對シ金一封トシテ五十圓ヲ贈與スル旨申出デタリ。一方小作側モ大イニ讓歩シ金一封トシテ二百圓ヲ要求スルニ至リシヲ以テ、三村議ハ引續キ極力斡旋ノ勞ヲ盡シタルガ妥協成ラザル内却テ感情問題ヲ誘發シテ收拾困難ニ陥リ斡旋中止ノ止ムナキニ至レリ。

其ノ後村長其ノ他有志ノ奔走スルモノアリシガ何レモ奏效セズ、斯テ九月末ニ至ルヤ小作側ハ飽ク迄抗爭セントスルモノト速カニ妥協セントスルモノトノ硬軟兩派ニヨリ俄然内訌ヲ生ズルニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

豫テ爭議ノ經過ニ注視ヲ怠ラザリシ小作官ハ調停ノ機熟セルヲ見テ九月二十七日現地ニ出張シ、曩ニ居中調停ニ奔走セル三村議及當事者双方ニ信望アル一有志者ノ立會ヲ求メ、該有志者ノ自宅ヲ借りテ地主並ニ小作側代表者ヲ招致シ調停ヲ開始セリ。小作官ハ立會者等ト評議ノ結果、曩ノ三村議斡旋ノ經過ニ鑑ミ一割五厘減免ノ外ニ金一封ヲ贈與スル形式ニヨルコトトシ右金一封ノ内容ヲ如何ニ決定スベキカニ付協議ヲ重ネタル末、百五十圓ヲ贈與セシムルコトトセバ減免率ハ一割五厘ト合セテ總計一割二分五厘ニ該當スルヲ以テ、之ニヨリ解決スベク極力双方ニ互讓ヲ勸告シ徹宵折衝ヲ重ネタル結果、小作側先ツ承認シ、次イテ地主モ二十八日ノ拂曉ニ至リ遂ニ應諾シ茲ニ示談成立セリ。

(三) 結 末

調停 條 項

- 一 昭和七年度小作料ニ付テハ之ヲ地主ニ於テ一割五厘ヲ減額スルコト
- 二 地主ハ別ニ農事獎勵ノ意味ヲ以テ小作人全員ニ對シ包括的ニ金一封(中味ハ百五十圓)ヲ贈ルコト
- 三 右第一項ノ減免額及曩ニ小作人カ地主ニ内入セル額ヲ控除シタル殘額支拂ノ期限ハ之ヲ自昭和八年十一月二十五日至同月二十八日トス
- 四 地主ノ小作人全員ヘ贈與スヘキ金一封ノ交付期限ハ之ヲ昭和八年十一月二十八日トス

一七 和歌山縣日高郡野口村大字野口 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和八年一月二十日

調停着手 昭和八年十月十五日

解 決 昭和八年十一月三日

關係人員 地主 九人 小作人 二十六人

關係土地 田 七町七反八畝四步

(一) 爭議ノ概況

小作人ハ昨年秋稻ノ刈取前立毛ノ檢見ヲ申出デ、地主協會代表立會ノ下ニ檢見ヲ行ヒ、後日其ノ結果ニ基キ減額交渉ヲ試ミタルニ、双方ノ意見ハ概ネ接近シタルヲ以テ爾後ノ折衝ハ比較的順調ニ進ミタリ。而テ小作人ハ昭和四、五年度未納小作米ニシテ昭和七年以後ノ分割支拂分ヲモ含ミテ同時ニ交渉セントシタルヲ以テ、地主ノ感情ヲ阻害シ遂ニ双方意志ノ疎通ヲ缺キ、其ノ間有志及警察當局ノ斡旋ニ依リ大體左記要項ニテ解決ヲナシタリ。

記

- 一 昭和四、五年度未納米チ一括シテ金八百圓ノ包金トシテ一時ニ支拂フコト
- 二 昭和七年度小作料ハ三割減トシ五割ハ即納シ残り二割ヲ昭和八、九年ノ二回ニ支拂フコト
- 三 第一項ノ包金及第二項ノ五割ノ小作米代金(一石十九圓換算)ハ昭和八年三月三十一日限り小作人ヨリ地主協會事務所へ持參納入スルコト

然ルニ右協定ヲ數日ナラズシテ地主協會代表ヨリ破約スル旨ノ通知ニ接シタルモ、小作側ハ地主代表ノ外部漏泄ヲ防グ策謀ト善解シ、飽ク迄約束ヲ守リ金策ニ奔走シ期限前ニ支拂ハントシタル處、地主側ハ之ヲ拒絶シテ受領セザル爲其ノ態度ヲ詰問セル處、御坊平野ノ爭議ハ目下調停申立中ニアルヲ以テ、其ノ解決迄一先ツ交渉ヲ打切ル様地主ヨリ申出デアリ、茲ニ於テ過去ノ折衝ハ地主側代表ノ奸策ニ乘ゼラレ誠意ナキ交渉タルコトヲ小作人ハ憤慨シ交渉ヲ打切リタリ。

然ルニ地主側ハ突然十月上旬一齊ニ立入禁止、立毛假差押ノ申請ヲナシ、收穫期ヲ控ヘテ地主ハ攻勢ニ出デタリシガ、立入禁止ハ却下サレ漸ク立毛假差押ノ許可ヲ得テ十月十三日突如關係小作地田七町歩ニ亘ル稻立毛ノ假差押ヘテ執行セリ。小作人ハ靜觀ノ上對策ヲ協議中ナリシガ遂ニ小作調停ノ申立ヲナシタリ。

(二) 調停ノ經過

小作人ハ今日迄比較的從順ナル態度ヲ以テ臨ミタル關係上、地主ノ攻勢的態度ニ甚シク憤慨シ、代表者ハ責任上場合ニヨリテハ如何ナル行動ニ出ヅルヤ難計情勢ニ際會シ、立毛刈取時期切迫スルヲ以テ小作官ハ換價處分ノ當日ヲ憂ヒ、ナルベク穩健ニ妥協セシメムトシテ極力地主側ト折衝シ、且小作人ヲ宥メ裁判所ト連絡ヲ取り晝夜兼行調停ニ奔走シタル結果、強硬ナル地主側モ社會ノ同情ヲ失ヒタルヲ以テ稍々反省シ讓歩シタルヲ以テ、小作人側モ調停事件ヲ取下ゲ遂ニ示談解決スルニ至レリ。

(三) 結 末

調停條項

- 一 地主ハ昭和四、五年度未納小作料ヲ昭和七、八、九年ノ各十二月廿五日ニ分割支拂ノ約定ノ所之ヲ三分ノ一ニ減額シ一石十九圓建ノ換算金額ヲ一時ニ支拂スルコトヲ承諾ス
- 二 地主ハ昭和七年度小作料中二割五分ヲ減額シ小作人ハ其ノ殘額七割五分ヲ一石二十圓建ノ換算金

額ヲ一時ニ支拂スルコト

但シ期限内ニ納付シタルトキハ更ニ五分ヲ給與スルコト

三 前二項ノ換算金額支拂ハ昭和八年十一月十日限り日高郡御坊町字嶋地主協會事務所ニ持參支拂スルコト

四 地主ハ第三項ノ支拂ヲ受ケタルトキハ直ニ十二月十二日施行セル稻立毛ノ假差押ヲ解除スルコト

五 將來天災其ノ他不可抗力ノ爲減收ノ虞アルトキハ刈取十五日前小作人ヨリ地主ヘ立毛ノ檢見ヲ申出テ地主小作人双方立會ノ上作況調査ヲナシ減額率ヲ協定スルモノトス、若シ双方協定ナラサルトキハ野口村長及野口區長ノ指揮ニ從フコト

一八 鳥取縣西伯郡福米村大字東原 (小作料請求)

爭議發生 昭和七年十二月二十六日

調停着手 昭和八年二月二十八日

解決 昭和八年三月三十一日

關係土地

畑 八町三反八畝十二步
田 四町四反一畝五步
宅地 千五百六十坪

關係人員 地主 一人 小作人 六十九人

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ公簿ト實際面積トノ間ニ大ナル相違アリテ常ニ爭議絶エザリシガ、該土地管理者タル山陰土地株式會社ハ昭和四年秋米子支部ノ假處分命令決定ニ基キ土地立入禁止ヲ執行セリ。其ノ際地方有力者ノ調停ニテ延滞米ノ支拂方法ヲ決定スルト共ニ、實測面積ニ基キ賃貸料ヲ隣地並ニ改正スルコトトシテ爭議解決セリ。仍テ地主ハ専門測量師ヲ雇傭シテ各筆ヲ實測シ(昭和五年冬ヨリ昭和六年春ニ亘リ)新面積ニヨリ宛口米ヲ決定シ之ヲ小作人側ニ發表セリ。然ルニ其ノ後小作人側ハ一部協定ニ基ク延滞小作料ノ支拂ヲ怠ルノミナラズ、改正賃貸料ハ小作人ノ意見ヲ尊重セズ地主ガ一方的ニ決定シタルモノニシテ公正ナルモノニアラズ、隣地ニ比シ高率ナリト稱シ、昭和五、六、七年度分賃貸料ヲ全般的ニ延滞セリ。斯クテ昭和七年十二月小作官ハ山陰土地株式會社ノ依頼ヲ受ケ關係地ノ賃貸料ヲ各筆毎ニ協定シタルモ、延滞賃貸料ノ支拂ニ就キテハ未ダ調停ヲ爲サザリシモノナリ。而シテ協定賃貸料ニ基ク昭和二年乃至昭和七年ノ未納小作料ハ二百二十六石餘ニ及ベリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ハ西伯郡農會技師及地方有力者一名ヲ斡旋者トシテ昭和八年二月二十八日西伯郡農會事務所ニ山陰土地株式會社支配人及地主代理人ト小作人側總代九名ヲ召集シ、深更ニ亘リ當事者間ヲ折衝シ

タルモ双方讓歩スル處ナク、昭和四年以前ノ未納小作料ハ地主側ヨリ依法調停ノ申立ヲナサシムルコトトシ、五年乃至七年度ノ未納小作料支拂ニ就キ圓滿ナル解決ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

小作官ハ調停條件ノ實行ヲ確實ナラシムル爲地主側ヨリ裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲サシムル事トシ、本條件ヲ基礎トシテ依法調停成立ヲ期スルコトトセリ。

調 停 條 項

- 一 昭和五、六、七年度分田貸貸料ヲ三十割トシ内三割ヲ減額スルコト
- 二 支拂方法ハ左記ノ通りトス
 - (イ) 十割ヲ昭和八年三月七日迄ニ玄米ヲ伯耆農業倉庫ニ入庫シ入庫票ヲ以テ支拂フコト
 - (ロ) 四割ヲ昭和八年七月十日迄ニ
 - (ハ) 四割五分ヲ昭和八年十月十日迄ニ
 - (ニ) 四割ヲ昭和九年七月十日迄ニ
 - (ホ) 四割五分ヲ昭和九年十月十日迄ニ

各時價ニ換算シテ支拂フコト

三 第一項ノ減額率ヲ控除シタル殘額ヲ全部三月七日迄ニ支拂ヒタル時ハ一箇年貸貸料ノ六分ヲ皆濟

祝儀トシテ地主ハ小作人ニ之ヲ贈與スルコト

- 四 第一項ノ減額率及第一回ノ支拂高ヲ控除シタル殘額ヲ昭和八年七月十日迄ニ皆濟シタル時ハ一箇年貸貸料ノ三分ヲ皆濟祝儀トシテ地主ハ小作人ニ贈與スルコト
- 五 第一項ノ減額率及第一回及第二回ノ支拂高ヲ控除シタル殘額ヲ昭和八年十月十日迄ニ皆濟シタル時ハ一箇年貸貸料ノ二分ヲ皆濟祝儀トシテ地主ハ小作人ニ贈與スルコト
- 六 第一項ノ減額率及第一回第二回第三回ノ支拂高ヲ控除シタル殘額ヲ昭和九年七月十日迄ニ皆濟シタル時ハ一箇年貸貸料ノ一分ヲ皆濟祝儀トシテ地主ハ小作人ニ贈與スルコト
- 七 畑貸貸料ハ左記ノ石代ニ換算シテ支拂フモノトス
 - (イ) 昭和五年一石ニ付十二圓六十錢
 - (ロ) 昭和六年同 十二圓六十錢
 - (ハ) 昭和七年同 十四圓
- 八 畑石代ノ支拂方法ハ田貸貸料支拂ノ時期分割方法ト同様トス
- 九 田貸貸料ハ別冊ノ通り昭和五年以降ヲ改正シ小作證書ヲ昭和八年三月七日迄ニ山陰土地株式會社ニ提出スルモノトス但シ之ヲ他ニ影響セシメサルコト
- 一〇 宅地ノ貸貸料ニ對スル石代決定ハ年中米價ノ平均相場トス

一 田畑宅地各貸貸料各支拂期日ニ皆濟セサルトキハ皆濟祝儀ヲ取消スノミナラス殘額ヲ一時ニ請求スルコトヲ得

二 昭和四年以前ノ貸貸料ノ未納者ハ昭和四年十二月十日成立セル協約書ノ減額率ヲ適用ス

三 貸貸料ノ支拂場所ハ山陰土地株式會社内トス

四 本調停條項ハ依法調停條項トシテ双方異議ナキモノトス

一九 岡山縣上道郡御休村大字一日市 (土地返還)

爭議發生 昭和八年四月八日

調停着手 昭和八年六月二十日

解決 昭和八年六月二十三日

關係人員 地主 一人 小作人 一人

關係土地 田 一反六畝十六歩

(一) 爭議ノ概況

小作人ハ本件土地ヲ永年耕作中ノ處突然地主ヨリ經濟不如意ニヨリ本件土地賣却ヲ理由ニ昭和八年四月八日内容證明郵便ヲ以テ契約解除ノ通知ヲ受ケタルモ、小作人ニ於テハ右土地ヲ返還セバ忽チ生活ニ脅威ヲ來スヲ以テ返地ニハ絶對應セザル旨回答シタルニ、地主ハ小作付ニテハ土地賣却ノ不可能

ナルニヨリ飽ク迄返地ヲ要望シタルモ、小作人ハ言ヲ左右ニシテ之ニ應ゼザルノミナラズ、解散中ノ舊農民組合幹部ヲ煽動シテ支部ノ再建ヲ計リ本件爭議ノ應援ヲ求メント策動シツツアルヲ同村々長ノ聞知スル處トナリ、同村長ハ常設委員其ノ他地方有志ヲシテ調停ニ當ラシメタルモ、小作人ハ絶對不返還ヲ主張シ一時調停決裂ノ状態ニテ經過セシガ、小作人ハ插秧期ニ至ルモ麥ノ收穫ヲナサズ立毛ノ儘地主ニ對抗セントシタルヲ以テ、地主ハ遂ニ六月二十日岡山地方裁判所ニ對シ假處分ノ申請ヲナシタリ然ルニ裁判所ハ假處分許可ニヨリ事件ノ紛糾スルヲ憂慮シ許可決定ニ付實情調査ヲ兼ネ調停方小作官ニ依頼アリタリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ハ直ニ爭議地ニ出張シ村長及地方有志ヲ歴訪シテ實情ヲ聴取シタル上、當事者双方ノ宅ヲ訪問シ調停ニ努メタルモ兩者ノ主張強硬ニシテ容易ニ解決セザリシヲ以テ、双方ニ對シ考慮ヲ促シ一先ツ歸應シタルニ、同月二十一日村長出縣シタルニヨリ小作官ハ村長ト共ニ調停案ヲ研究シ大體成案ヲ得タルヲ以テ、同月二十三日當事者双方ノ出頭ヲ求メ鋭意調停ニ奔走シタル結果同日左記調停條項ニヨリ圓滿解決シタリ。

(三) 結 末

一 小作人ハ此項調停條項

一 小作人ハ地主ニ對シ本件土地ヲ昭和八年六月二十三日限り異議ナク返還スルコト

二 地主ハ小作人ニ對シ換地トシテ田九畝二十四歩ヲ與ヘ小作料一石七斗ニテ耕作セシムルコト

三 地主ハ返地ノ賠償トシテ作離料並ニ鋤起シ代、肥料代等ヲ合算シ金七十圓ヲ支給シ尙未納小作料六斗ヲ免除スルコト

四 右各項ハ御休村々長立會ノ上履行スルコト

二〇 廣島縣廣島市觀音町 (小作權賣買)

爭議發生 昭和八年五月十日

調停着手 昭和八年五月十九日

解決 昭和八年七月十五日

關係人員 地主 一人 小作人 三人

關係土地 田 一反三畝歩

(一) 爭議ノ概況

繫争地ハ小作人磯井某ガ賃借耕作中昭和七年十二月小作權ヲ大田某ニ賣却シ、大田某ハ麥ヲ播種スベク施肥並ニ整地ヲ終リタルニ同年十二月二十八日地主河野某ハ小作人磯井某ノ小作料未納ヲ理由ニ本件土地及他ノ隣接土地ニ立入禁止ノ假處分ヲ執行シタル爲、大田某ハ耕作ヲ中止シ麥播種ノ時期ヲ

失シタリ。其ノ後昭和八年二月地主河野某、小作人磯井某間ノ調停成立シ、假處分ハ解除セラレ土地ハ地主ニ返還セラレタリ。依而地主ハ新ニ桂木某ヲ小作人ニ選定シ水稻植付ノ準備ヲ爲サシメタル處大田某ヨリ之ガ故障ノ通告ヲ受ケタルヲ以テ、地主ハ縣廳ニ小作官ヲ訪問シ事情ヲ具陳シ調停方ヲ依頼シタリ。然ルニ小作人大田某モ亦小作官ニ調停方依頼シタリ。當事者ノ主張左ノ如シ。

地主ノ主張

一 小作人相互間ノ賣買ニヨル耕作權ノ移動ヲ否認ス

二 小作權買受人大田某ノ小作權ヲ否認ス

三 新小作人桂木某ヲ指定シ耕作ヲ爲サシム

小作權賣渡人磯井某ノ主張

本件土地ノ小作權賣却ニ就テハ地主代人ノ應諾ヲ得タルヲ以テ小作權ヲ大田某ニ賣渡シタリ。小作權讓受人大田某ノ主張

大田某ハ小作權ヲ飽ク迄主張シ地主代人ノ承諾ヲ得タルコトヲ主張ス。

新小作人桂木某、地主ノ指定ニ依リ又耕作ヲ主張シ、地主代人ハ大田某ヨリノ耕作要求ニ對シ確答ヲ與ヘタルコトナシト主張セリ。

(二) 調停ノ經過

新舊小作人ハ夫々苗代ヲ設ケ居リ何レモ耕作權ヲ強硬ニ主張シ居ルニ依リ小作官ハ小作權賣買ノ幹旋人、地主代人、關係當事者ヲ縣廳ニ招致シ事情ヲ聽取シ極力調停斡旋ニ努メタルモ、自己ノ主張ヲ嚴ニシ互ニ相牽制シテ耕作ヲ爲シ能ハザル状態ニ在リタリ。

其ノ後地主ノ指定小作人ハ地主立會ノ上繋争地ノ四分通稻植付ヲ爲シタル處、翌朝大田某ハ其ノ餘ノ六分ノ稻植付ヲ爲シ小作人相互間ニ紛糾ヲ醸シタリ。地主大イニ激昂シ小作權買受人大田某ノ耕作禁止方ヲ小作官ニ陳情シ、大田某又事情ヲ述べ小作官ハ當事者間ニ調停ノ機運生ジタルヲ以テ七月當事者ヲ縣廳ニ招致シ極力和解ヲ勸奨シタル結果左記條項ニ各々調印シ圓滿解決ヲ告ゲタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 大田某ハ昭和八年七月十五日現在ニ於テ本件土地ニ自ラ植栽シタル作物ノ耕作ヲ繼續シ本年十二月末日限り之カ收穫ヲ終リ本件土地ヲ地主ニ返還スルコト但シ耕作期間内ニ於ケル小作料及其ノ他ノ負擔ハ地主ニ於テ之カ請求ヲ爲ササルコト
- 二 右土地引渡期限後ニ於テ本件土地ニ残留セル物件ハ大田某ニ於テ之ヲ放棄シタルモノト看做ス
- 三 桂木某ハ昭和八年七月十五日現ニ本件土地ニ植栽シタル作物ノ耕作ヲ繼續スルコト但シ地主トノ間ニ於ケル小作契約ハ其ノ相互間ニ於テ別ニ定ムルコト

- 四 各耕作人ハ本年十二月末日迄ノ期間内ニ於テ本件土地ノ占有ヲ第三者ニ移轉セサルコト
- 五 地主ハ以上列記ノ各項ヲ承諾スルコト

二一 山口縣都濃郡福川町字室尾 (永小作權確認)

爭議發生 昭和八年九月十日

調停着手 昭和八年九月十八日

解 決 昭和八年十一月二日

關係人員 地主 一人 小作人 四十二人

關係土地 田 十六町四反步 畑 四反步 宅地 六反步

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ福川町ノ海濱ニ在リ、今ヲ去ルコト百五十四年前即チ安永九年庚子毛利藩ガ同地資本家西豊井村源兵衛組ノ源兵衛ヲシテ之ヲ干拓セシメ、天明七年丁未石盛成當地其ノ反別田十町六反十八步、畑四反四畝二十六步ナリキ。現小作人等ノ祖先ノ大部分ハ干拓當時其ノ附近ヨリ集リテ移住シタルモノノ如シ。干拓當時ノ事情ハ詳ナラザルモ古文書、古老等ニ依リテ想像スルニ、小作人等ハ一家ヲ舉ゲテ移住シ辛ジテ風雨ヲ防ギ得ル極メテ粗末ナ堀立小屋ヲ建テ、區劃サレタ砂濱ノ一部ヲ借り受ケ永代耕作ヲ許サレタルヲ唯一ノ樂トシテ干拓七年ヲ經過シ、天明七年藩吏ノ手ニ依テ各田ノ石盛ヲ爲

シ次デ上納米ヲ確定サレタルガ未ダ地味瘠薄ニシテ收穫尙不整ナルニ其ノ上納米ハ比較的多額ノモノニシテ、一家ノ糊口サヘ充シ難キ有様ナリシガ、石ヤ礫ヲ拾ヒ除ケ小高キ山側ヨリ土ヲ容レ耕耘肥培ニ努メタリ。斯クテ十數年ヲ經過シ現地主木村某祖先ノ所有トナリタル頃ヨリ土質整ヒ肥沃トナリ作物ノ收穫モ増加シ反當六、七斗ノ玄米ヲ收納シ得ルニ至レリト謂フ。爾來小作人間ニハ代々當地ノ小作權ヲ鋤起料ト稱ヘ一種ノ財産ノ如ク認メ反當五十圓乃至二百圓程度ニテ賣買、質入、擔保等ニ使用シ、現在ハ舊慣ニ依ル永小作權ヲ取得セルガ如キ状態ニアリ。然ル處地主ハ此ノ土地ヲ他ノ者ニ賣却セントシ一方現小作人ニ對シ反當六百五十圓ヨリ七百圓程度ナラバ賣却スルニ付希望者ハ申出ヅベシト通知セリ。其ノ結果現小作人ノ大部分ハ本件土地ヲ失フコトナリ祖先ノ辛勞ニ依リテ既得シタル鋤起ノ權利ヲ失フコトニナルモノトシテ憂慮シ種々考究シタル結果、地主ニ對シ永代小作權ノ確認及其ノ賠償方ヲ要求セリ。然ルニ地主ハ小作人ガ勝手ニ行使シタル權利ハ容認シ難シト拒絶シ、遂ニ百五十餘年ノ永キ年月培ハレタル兩者間ノ麗シキ情誼ハ一掃サレントシ、感情的反目ヨリ醜キ抗爭ヲ惹起セントセリ。依テ小作人側代表者六人ハ出縣シ之ガ調停方ヲ小作官ニ申出タリ。

(二) 調停ノ經過

九月十八日小作官ハ現地ニ出張シ地主及小作人側ニ折衝シテ其ノ主張ヲ聽取シタル處、地主ハ當田ノ時價反當七百圓ナルモ現小作人等ガ購入スルナラバ反當平均六百五十圓ニテ賣却スベキモ、彼等ノ

要求スル永代小作權ハ承認シ難シト主張シ、小作人側ハ干拓以來現在ニ亘リ鋤起料ノ名ノ下ニ賣買取引シ、現在其ノ古文書モ存置シアリ唯一ノ財産ト心得居タルモノナレバ此ノ際其ノ價值ヲ承認シ賠償サレタシト主張ス。依テ小作官ハ本件土地ヲ能フ限り安價ニテ小作人ニ購入セシムルコトトシ、實際ノ價格ト時價トノ差格ヲ地主ノ情誼ヲ含ム永小作權ノ價值ト認ムルヲ適當ナリトシ、地主ニ對シテハ土地ト小作人トノ關係ヲ屢々説示シ、此ノ際能フ限り安價ニテ現小作人ニ購入セシムル様極力徳通シタル所地主モ之ヲ認メタリ。次ニ小作人ニ對シテハ永代小作權ノ承認及其ノ賠償ヲ強張スルヨリ寧ロ地主ノ眞情ニ訴ヘ田地ノ價格ヲ引下ゲテ購入スルコトガ得策ナリト懇談ヲ重ネタルニ小作人モ亦了解セリ。斯クスルコト數回ニ亘リテ斡旋ニ努メタル結果右田地約十町步ヲ此ノ際賣却スルコト、残り六町步ハ引續キ小作セシムルコト、賣却セントスル田地ハ反當五百圓、畑及宅地ハ反當二百圓(希望者ニ限リ)ト定メテ圓滿解決ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

左記條項ニヨリ圓滿解決ヲ告ゲタリ。

調 停 條 項

一 繫争地ノ内約十町步ヲ田反當五百圓、畑及宅地ハ反當二百圓ニテ小作人ニ於テ購入スルコト

二 残り六町歩ハ從來通り小作ヲ繼續セシムルコト

二二 香川縣三豐郡高室村大字高屋 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和八年二月一日

調停着手 昭和八年九月七日

解決 昭和八年九月十二日

關係人員 地主 一人 小作人 三十人

關係土地 田 三町七反二畝歩

(一) 爭議ノ概況

本件小作人ハ大正十三年以來小作料反當一石四斗乃至一石二斗ニ對シ、三割以上ノ減額方ヲ要求シ毎年八割内外ノ小作米ヲ納入シタリ。地主ハ他村(八箇町村)ニ於ケル自己所有田地ノ小作料ヲ減額シタルコトナキヲ以テ、若シ之ニ應ゼバ其ノ影響スル處甚大ナルヲ慮リ減額ニハ一切應ゼザリキ。然ルニ村内一般地主ハ昭和二年六月ノ解決ニ於テ反當小作料一石五斗以上ハ一割五分引、一石四斗以上ハ一割四分引、其ノ他ハ之ニ準ズルコトトナリタリ。依テ小作人ハ此ノ解決通り要求シタルモ、地主ノ容ル處トナラザリシヲ以テ、昭和七年度ノ小作料全部ヲ納付セズ爭議ヲ繼續シタリ。

(二) 調停ノ經過

地主ハ未納小作料ヲ通算セバ三箇年以上ノ小作料トナルヲ以テ、小作人ニ對シ速カニ完納方ヲ督促シ、小作人ノ代表者ニ於テモ是以上放置スルヲ許サザルニ依リ地主ト折衝ヲ重ネタル處、小作料ハ減額セザルモ年賦辨濟ヲ認ムルコトニ大體協定調ヒ、其ノ裁量ヲ縣小作官ニ一任スルコトトナリタリ。双方ノ申出ニ依リ縣小作官ハ同地ニ出張シ双方ノ意見ヲ聽取シタルニ、小作側ハ十箇年以上ノ年賦ヲ要求シ、地主ハ二箇年位ヲ主張セリ、其ノ間極力斡旋ノ結果互讓ニ依リ左記ノ通り圓滿解決シタリ。

(三) 結 末

契 約 證

第一條 昭和五年度ヨリ昭和七年度ニ至ル三箇年間及ソレ以前ノ滯納米モ含ム賃借地料滯納米ハ左記

方法ニヨリ納ムルコト

但シ昭和五年度以前ノ滯納米ハ特ニ昭和八年十二月末日迄ニ納ムルコト

第一項 昭和五年度ヨリ昭和七年度ニ至ル三箇年ノ滯納米ハ昭和八年度ヨリ昭和十年度迄三箇年々

賦トシ左記ニ依リ毎年十二月ニ納ムルコト

昭和五年度滯納米ハ昭和八年十二月末納ムルコト

昭和六年度滯納米ハ昭和九年十二月末納ムルコト

昭和七年度滞納米ハ昭和十年十二月末納ムルコト

第二項 前記昭和五年度ヨリ昭和七年度迄三箇年間及ソレ以前ノ滞納米納期遅延ニ對シテ年五分ノ

利息ヲ附シ納付スルコト

第二條 總テ納米ハ産米検査合格米ヲ以テ納ムルコト

第三條 賃借人カ第一條第一項ノ支拂期日ニ於テ之カ履行ヲ怠リタル時ハ賃貸人地主ハ殘額ヲ一時ニ

請求スルモ賃借人ニ於テ異議ナク完納スルコト

第四條 昭和八年度ヨリ昭和十年度迄ノ賃貸借料ハ其ノ八割ヲ毎年其ノ年十二月末日迄ニ内入納トシ

其ノ殘額ノ二割宛ハ昭和十年滞納米ノ年賦完了ノ納期後賃貸人地主ノ請求ニ應シ直ニ全部取纏メ完

納スルコト

第五條 土地賃借人カ本契約ノ履行ヲ怠リタル時ハ賃貸人地主ハ直ニ土地ノ返還ヲ請求シ得ルモノト

ス此ノ場合賃借人ハ建物、工作物、立毛等地上物ヲ取除キ異議ナク賃貸人地主ヘ土地ヲ明渡スモノ

第六條 本契約ハ昭和八年九月十二日賃貸人タル地主浮田甲某邸宅ニ於テ地主浮田甲某、賃借人ノ代

理者細川某、藤原某、五味某、近藤某、縣小作官補内海某、之ニ浮田乙某立會合意ノ上本契約證三

通作製シ關係者左ニ署名捺印シ各自一通宛所持スルモノ也

二三 愛媛縣周桑郡櫻樹村大字曰坂 (小作料永久減額)

爭議發生 昭和七年十一月二十一日

調停着手 昭和八年二月八日

解 決 昭和八年三月二日

關係人員 地主 一人 小作人 二人

關係土地 田 一段八畝歩

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ大正十三年地主ガ買受ケト同時ニ關係小作人ト小作契約ヲナシ小作料一箇年二石五斗六升トシテ毎年十二月二十五日限リ納付スル約束ナリシガ、小作人ハ耕作面積ガ契約反別ヨリ狭少ナリトノ理由ノ下ニ昭和二年度以來小作料ノ一部分宛滞納スルニ至リ、地主ハ昭和五年實測セシニ其ノ結果約一畝歩ノ減少ヲ見タル爲、昭和四年度小作料ヨリ二石四斗ニ減額セシモ、小作人ハ反別相違ノ事實明トナリシ上ハ契約ノ當初ニ逆リ減額方要求スルノミナラズ、當初ノ契約ハ仲介者ヨリ反當一石二斗トシテ交渉アリ之ヲ承諾シタルモノナル旨主張シ、昭和六年度末迄ニ三石四斗二升ノ滞納ヲナスニ至リシモノナリ。

(二) 調停ノ經過

地主代理人(不在地主ナル爲)ハ小作人ト折衝セシモ地主ハ小作料ヲ請求シ小作人ハ小作料ノ段下ゲヲ要求シテ協定不能ニ陥リシ爲、小作官ニ陳情セシ處小作官ハ昭和七年十二月中旬實地竝ニ實情ヲ調査シタルニ内容複雑ニ付小作調停法ニ依リ調停申立ヲ勸告セシモ、双方共ニ小作官ニ法外調停方申出デタルヲ以テ調停ニ着手スルニ至リシモノナリ。

小作人ノ主張ハ契約ノ當初仲介人ヨリ反當小作料一石二斗ノ交渉ニテ小作契約ヲ承諾シタルモノナレバ夫レ以上納付ノ義務ナク、又實測反別減少ノ上ハ其ノ反別ニ依リ計算スルヲ當然ナリト主張シ、地主ハ買受ノ際仲介人ヨリ反別ハ兎ニ角小作料總額二石五斗六升ノ計算ニ依ル價格ニテ買受ケタルモノナレバ小作料ノ段下ゲハ不可能ナル旨ヲ主張セシヲ以テ、各種資料ニ基キ考究ノ結果地主ニ對シテ契約反別ト實測反別トノ差約一畝歩ノ小作料ヲ一斗六升トシテ契約小作料ヨリ控除シ二石四斗トスルモ尙高率ノ感アルヲ以テ約一代下ゲトシ二石二斗程度ニ減額方勸告セシニ、地主ハ小作料ノ高率ナルコトハ略諒承セシモ仲介者ノ言ヲ信ジ二石五斗六升ノ計算ニ依ル價格ニテ買取リタルモノナルト、尙永久ニ所有スルトセバ考慮ノ餘地アルモ遠隔ノ地ニシテ管理意ノ如クナラズ且家政ノ事情モアリ或ハ賣却ノ不得已ニ至ルヤモ不計、若シ賣却スルトセバ小作料ヲ減額シ置クコトハ多大ノ不利益トナルヲ以テ、反別ノ相違ニ對スル分ハ不得已トスルモ一箇年二石四斗ハ是非存置セラレ度シ、其ノ代償トシテ他ノ方法ニ依ル應分ノ犠牲ハ小作官ノ裁定ニ應ズベク申出デタリ。

昭和六年度末迄ノ滞納小作料ハ三石四斗二升トナルモ、反別ノ相違ニ依ル差額三箇年分四斗八升(一箇年一斗六升)昭和六年度肥料代及種籽代ノ補償一斗四升(六年度ハ不作ノ爲地主ガ生産籽全部ヲ收納セシモノナリ)等ヲ差引ク意味ニ於テ二石八斗(七俵)ニ減額シ、毎年一俵宛分納ニ同意スベク勸告セシニ、地主ハ反別ノ相違ハ實測後ハ兎ニ角實測前ニ逆ルコトハ同意シ難キモ結局八俵ニ減額スベク申出デタリ。仍テ小作官ハ反別相違ノ點ニ付當初ノ契約反別ガ公簿反別ナリトセバ地主ノ意見ヲ尊重スベキモ公簿反別一畝五畝歩ノモノヲ一畝八畝餘歩トシテ宛付ケタルモノニシテ、地主ノ不誠意ト認めザルヲ得ザル成行キトナル旨ヲ說示シ遂ニ同意ヲ得タリ。

更ニ小作人ニ對シ小作料ノ高率ナルコトハ認ムルモ地主ニモ亦同情スベキ事情アルヲ以テ二石四斗ニ同意セラレ度、其ノ代償トシテ地主ニ土地改良ヲナサシメ地力ノ増進ヲ圖ルヲ以テ其ノ曉ヲ見テ尙必要アレバ更ニ協定ノ餘地アル旨ヲ諭セシニ、小作人ハ小作料二石四斗ハ高率ニシテ小作人トシテ堪ヘ難キ旨申出デタルモ、二石四斗ハ契約小作料ニシテ實納小作料ニアラズ或ル程度ノ小作人ニ收得米ナキ場合ハ減額ノ途アル旨ヲ說示シ略諒解ヲ得、滞納小作料三石四斗二升ヲ七俵ニ減額シ七箇年間ニ分納ノ件ニ付勸告セシニ、小作人ハ年々ノ小作料六俵ト滞納小作料ノ分一俵ト合計七俵ハ到底納付シ得ザル旨申出デシモ、不作ノ年ハ猶豫シ普通作以上ノ年ニ限り滞納ノ分一俵ヲ納付スルコトトシテ略同意ヲ得タリ。

昭和七年度小作料ハ三月末日迄ニ完納方勸告セシニ現在四俵ヲ所持シ居ルノミナルヲ以テ二俵ハ延納方申出デタリ。仍テ二俵ハ金錢貸借ニ改ムルコトニ同意ヲ得タリ。

茲ニ於テ双方ノ意見略一致ヲ見タルヲ以テ裁定書ヲ作成發表シ同意ヲ得タリ。

(三) 結 末

左記調停條項(裁定書)ニ同意ノ上双方調印ヲナシ圓滿解決ヲ告ゲタリ。

裁 定 書

周桑郡德田村大字德能近藤某所有同郡櫻樹村大字白坂越智某耕作同郡櫻樹村大字白坂字川西丙九十番地外三筆合計反別田一段七畝八步(内畦畔九步外畦畔五步)ニ關スル紛争ニ就キ左ノ通裁定ス

一 昭和四年度以降小作料ヲ二石四斗トスルコト

二 地主ハ昭和八年ヨリ同十一年迄四箇年間ニ毎年二月若クハ三月ニ於テ本件地所ニ對シ各一日間

宛(駄馬一頭馬丁一人人夫一人ヲ使用)總計六十駄以上ノ土入レヲ爲シ土地改良ヲ行フコト

小作人ハ右作業ニ對シ便宜ヲ計ルモノトス

三 小作人ハ昭和七年度小作料ヲ昭和八年三月三十一日迄ニ地主ノ代理人櫻樹村大字白坂今井某宅

ニ持參シ完納スルコト若シ現米ナキ場合ハ白坂部落ニ於ケル時價ニテ換算セシ金額ヲ代納スルモ

ノトス

四 地主ハ昭和六年度末迄ノ滯納小作料總額三石四斗二升ヲ反別ノ相違竝ニ昭和六年度肥料代及種

粃代補償等ヲ斟酌シ二石八斗(七俵)ニ減額スルコト

五 小作人ハ滯納小作料ヲ昭和八年ヨリ向フ七箇年ニ各一俵宛其ノ年十二月二十五日迄ニ納付スル

コト但シ不作ノ爲小作人ノ收得米(小作料ヲ納付セシ殘米)ニ俵以下ノ年ハ之ヲ猶豫シ順次年期ヲ

繰下クルモノトス

滯納小作料ニ對シテハ地主ハ特ニ利子ヲ免除スルコト

六 不作ノ爲滯納小作料分納ノ猶豫ヲ歎願セントスルトキ若クハ契約小作料ノ減額要求ノ不得已場

合ハ立毛刈取前地主代理人ニ申出双方立會ノ上立毛ヲ檢見シ滯納小作料分納猶豫ノ要否若クハ契

約小作料減額ノ協定ヲナスコト若シ當事者間ニ於テ協定出來サルトキハ双方ノ同意スル第三者ノ

判定ニ一任スルモノトス

七 昭和八年度以降小作料ノ納付期日ヲ毎年十二月二十五日トシ正當ノ事由ナク小作料ノ納付ヲ怠

リタルトキハ地主ハ小作契約ヲ解除シ小作人ハ次年度稻作ヨリ土地ヲ明渡スコト

八 小作人ニ於テ昭和七年度小作料ニ限り本裁定期日ニ完納スルコト能ハサルトキハ玄米二俵以下

ニ限り金錢貸借ニ改メ借用證書ヲ差入レ得ルモノトスルコト

九 本件小作契約ニ關シテハ本裁定書ヲ以テ小作證書ニ代ヘ裁定者タル愛媛縣小作官之ヲ立證スル

右裁定ニ双方同意ノ上正本二通ヲ作成シ地主代理人、小作人各一通ヲ領置スルモノトス

昭和八年三月二日

裁定者 愛媛縣小作官
 地主代理人 氏 名
 小作人 氏 名

二四 高知縣吾川郡仁西村 (調停條項不履行)

爭議發生 昭和七年十一月二十一日

調停着手 昭和七年十一月二十五日

解決 昭和八年四月十一日

關係人員 地主 十二人 小作人 十六人

關係土地 田 一町七段三畝十三步 畑 三段八畝十六步

(一) 爭議ノ概況

本件小作者ハ曩ニ昭和七年五月、昭和六年度ノ稻作ガ水害蟲害ニ因リ不作トナリタルヲ理由トシテ、地主ニ對シ契約小作料三割ノ減免ヲ要求シ、地主之ニ應ゼズ爭議トナリ、遂ニ地主ハ訴訟手段ヲ以テ

小作地返還滯納小作料ノ請求ヲナシ權利保全ノ爲ニ立入禁止假處分ヲ執行シ、小作者ハ小作料ノ三割減、訴訟取下、假處分即時解除ヲ求ムル調停ノ申立ヲナセリ。而テ結局地主ハ昭和六年度契約小作米ノ一割ヲ減免シ、其ノ分割納入ヲ承認シ昭和七年七月三十一日ニ五割五分、昭和七年度ノ小作米納期ニ一割五分、昭和八年度及昭和九年度ノ小作米納期ニ各一割ヲ支拂ハシムルコトトシ、若シ小作者ニ於テ之ガ支拂ヲ怠リタル時ハ、地主ノ土地返還要求ニ應ズルコトノ條件ニテ調停成立セリ。然ルニ小作者ハ之ガ調停條項ノ履行ヲナサザル爲、地主ハ調停條項不履行ニ基キ土地明渡ノ強制執行ヲナシタルニ對シ、小作者側ハ裁判所長、知事、小作官等ニ陳情シ、十二月二十二日地主側人夫ノ播種セル麥田ヲ鋤返シテ再ビ播種セムトシタル爲、地主側、小作人側ノ衝突ヲナシ小作人側幹部數名ハ暴力行爲違反トシテ取調ヲ受ケ、越ヘテ更ニ二十四日夜半ヨリ小作人側全國農民組合員二百八十名ハ燒酎ヲ用意シ白米五俵ヲ焚出シ飲食ノ上松明ヲ點シ太鼓、ホラ貝ヲ打鳴シテ執行地二町餘ノ地主ガ播種セル麥田ヲ一齊ニ鋤返シ更ニ播種セル爲、警察當局ハ之ガ解散ヲ命ズルト共ニ主謀者タル全國農民組合聯合會幹部岡崎某(秋山村々長)外十四名ヲ引致取調べ、暴力行爲取締法違反トシテ百六十餘名ガ起訴セラレタルモノナリ。(此ノ刑事事件ハ第一審、第二審共ニ十圓以上三十圓ノ罰金ヲ言渡サレタルモ被告人服罪セズ目下上告中)

(二) 調停ノ經過

本事件ハ前記ノ如ク一旦調停法ニヨリ解決シタルモノガ再ビ小作者ノ調停條項不履行ノ爲ニ蒸シ返シタル事件ニシテ、小作者ハ飽ク迄小作地ノ再貸與ヲ希望シ居リ、小作官モ其ノ實情ニ鑑ミ之ヲ法外調停ニ依リ解決スベク、數度ニ亘リ努力スルモ地主側ハ頑強ナル態度ヲ持シ調停至難ニ見ユタルモ、本數回ニ亘リ熱心調停ニ努メタル結果、漸ク兩者ノ互讓妥協成リ左記條項ニ依リ解決シタリ。

田一書ニ關スル(三) 結 末

仁西村ニ於ケル昭和七年(小調)第十五號調停條項不履行ニ基ク土地明渡ノ執行小作地ハ左記ニ依リ

田昭和八年四月ヨリ更メテ賃貸スルモノトス

一 貸付土地ノ面積、地主、小作人等ハ別紙ノ通りトス

二 賃貸期間ハ昭和八年四月ヨリ向フ五箇年トス、但シ當事者間ニ於テ不都合ノ廉ナキ限り更新ス

三 小作料納期、品質等ハ其ノ土地從來ノ通りトス

四 不可抗力ニ因リ小作料ノ減免ヲ要スル場合ハ稻刈取七日前地主ニ檢見ノ申出ヲ爲シ兩者協定ヲ爲スモノトス若シ其ノ協定調ハサル時ハ縣小作官又ハ同官ノ指定スル者ノ裁定ニ服スルコトトス

五 小作人ニ於テ前各項ニ違反シタル時ハ地主ノ返地要求アルモ異議ヲ述ヘサルコトトス

六 小作人ハ各其ノ減額協定ニ係ル昭和六年度延滞小作料ノ全額ヲ昭和八年六月末日迄ニ同昭和七年度小作料ヲ昭和九年四月末日迄ニ各關係地主ニ納入スルコト

七 前項ノ履行ヲ怠ル時ハ立毛ノ有無ニ不拘契約ハ之ヲ取消スモノトス

八 地主カ正當ノ理由ニヨリ返地ヲ要求スル時ハ之ニ應スルコトトス

二五 福岡縣福岡市犬飼町 (立毛賠償及作離料請求)

爭議發生 昭和八年十月十四日

主調停着手 昭和八年十一月十八日

解決 昭和九年二月三日

關係人員 地主 五人、小作人 九人

關係土地 田 二町五反四畝二十二步

又福岡市ニ於テハ就學兒童激増ノ現況ニ鑑ミ小學校新築ノ必要ニ迫ラレ本件土地ヲ選定シ之ガ敷地トシテ關係地主ニ對シ賣却方ヲ交渉シタルニ地主ハ之ヲ快諾シタリ。

然ルニ小作人側ニ於テハ生活資源タル小作地ヲ引上ゲラレルコトハ農家不況ノ今日ニ於テハ其ノ打撃特ニ甚大ナルモ小學校建築ナレバ敢テ反對セズ、然レ共依テ受クル生活ノ脅威ニ對シテハ充分ニ補

争議發生 昭和八年十月十四日

主調停着手 昭和八年十一月十八日

解決 昭和九年二月三日

關係人員 地主 五人、小作人 九人

關係土地 田 二町五反四畝二十二步

又福岡市ニ於テハ就學兒童激増ノ現況ニ鑑ミ小學校新築ノ必要ニ迫ラレ本件土地ヲ選定シ之ガ敷地トシテ關係地主ニ對シ賣却方ヲ交渉シタルニ地主ハ之ヲ快諾シタリ。

然ルニ小作人側ニ於テハ生活資源タル小作地ヲ引上ゲラレルコトハ農家不況ノ今日ニ於テハ其ノ打撃特ニ甚大ナルモ小學校建築ナレバ敢テ反對セズ、然レ共依テ受クル生活ノ脅威ニ對シテハ充分ニ補

争議發生 昭和八年十月十四日

主調停着手 昭和八年十一月十八日

解決 昭和九年二月三日

關係人員 地主 五人、小作人 九人

關係土地 田 二町五反四畝二十二步

又福岡市ニ於テハ就學兒童激増ノ現況ニ鑑ミ小學校新築ノ必要ニ迫ラレ本件土地ヲ選定シ之ガ敷地トシテ關係地主ニ對シ賣却方ヲ交渉シタルニ地主ハ之ヲ快諾シタリ。

然ルニ小作人側ニ於テハ生活資源タル小作地ヲ引上ゲラレルコトハ農家不況ノ今日ニ於テハ其ノ打撃特ニ甚大ナルモ小學校建築ナレバ敢テ反對セズ、然レ共依テ受クル生活ノ脅威ニ對シテハ充分ニ補

償セラレタシトテ日本農民組合九州同盟會本部並ニ犬飼支部ノ應援ヲ受ケテ離作料反當金八百圓及作付中ノ蔬菜ニ付補償金ヲ要求スルニ至レリ。依テ市當局及學務委員ハ關係地區ナル住吉町及犬飼町ノ町總代ヲ介シ小作人側ト折衝ヲ重ネ離作料反當二百圓ヲ支給スル條件ヲ提示シ其ノ了解ヲ求メタルモ、小作人側ハ農民ノ支持ヲ受ケ態度強硬ニシテ八百圓ノ離作料ヲ要求シテ讓步セザルヲ以テ終ニ小作官ニ事情ヲ具陳シ之ガ解決ヲ一任セリ。

(二) 調停ノ經過

茲ニ於テ小作官ハ從來ノ經過並ニ小作地ノ實情ヲ農事試驗場技師ト共ニ精密ナル調査ヲ遂ゲ調停ニ對スル腹案ヲ練リ、福岡市役所ニテ市當局及關係地主小作人並ニ農民組合幹部ノ參集ヲ求メ、各其ノ主張要求ヲ聽取スルト共ニ調停方針ヲ示シ其ノ承認ヲ求メタルモ、兩者ノ主張依然伸展ヲ見ズ中途小作官ト市當局トノ秘密打合せ事項漏洩シ小作官ノ苦心モ水泡ニ歸シ調停一時絶望視サレタルモ、更ニ勇ヲ鼓シ調停ヲ續ケ數次ノ折衝ニ依リ解決ノ曙光見ヘ十二月末日ニ至リ覺書ヲ作成スル迄ニ運ビタルモ、離作料ノ支給形式ニ關シ市當局ト地主トノ間ニ所説ヲ異ニシ之ガ解決困難ナリシガ、結局其ノ妥協成リ左記調停條項ニ依リ圓滿解決セリ。

(三) 結 末

昭和九年二月三日當事者並ニ市當局ノ意見完全ニ一致シタルヲ以テ契約書三通ヲ作成シ各一通宛保

管スルコトトセリ。

調 停 條 項 (契約書)

地主太田某外四名ノ所有地ニテ目下増田某外九名カ小作中ノ田地ヲ今回福岡市立(犬飼)小學校敷地トシテ福岡市ニ買收セラルルニ當リ地主、小作人、福岡市間ニ左記各項ヲ契約シ各自遵守履行スルタメ本契約書ヲ作成シ各自一通宛ヲ所持スルモノ也

一 地主ハ關係小作人増田某外九名ニ對シ福岡市ノ買收スル土地ニ付反當金三百圓ヲ知事ノ位置指定後五日以内ニ交付スルコト

右ハ福岡市新設小學校敷地トシテ豫定ノ處種々ナル事情ニ因リ遷延シ事態急迫セル爲至急之ヲ決定スルノ必要アリ已ムヲ得ス前項ノ金員ヲ地主ヨリ市當局又ハ斡旋者ニ交付シ解決スルコトトセラル次第ナリ

二 福岡市ハ關係小作人増田某外九名ニ對シ買收地ノ作物補償トシテ反當金七十圓ヲ前項同様ノ期間ニ交付シ是ト同時ニ市ハ直ニ工事ニ着手スルモ小作人ハ何等ノ苦情ヲ申出テサルコト

三 福岡市ハ今回ノ買收ニ依リ小作地全部ヲ失フ増田某、本田某、野村某ニ對シ見舞金トシテ各五十圓宛計百五十圓ヲ前同様ノ期間ニ交付スルコト

四 地主太田某外四名ハ關係田地ノ昭和八年度小作料ヲ免除スルコト

五 本契約締結ト同時ニ市ハ必要ニ應シ測量等ノ爲實地ニ立入ルモ小作人竝ニ地主ハ何等異議ヲ申出テサルコト

六 買收地ニ在ル作物ハ第一項乃至第三項ニ依ル交付金ノ交付ヲ受ケタル後、五日以内ニ於テ撤去スルコト若シ遲滞シタルトキハ該作物ヲ市ニ於テ處分スルモ小作人ハ故障ヲ申立テサルコト
右契約ス

二六 佐賀縣神崎郡東脊振村 (小作契約設定)

爭議發生 昭和八年四月

調停着手 昭和八年八月二日

解 決 昭和八年八月十五日

關係人員 地主(七箇部落共有地) 小作人 十九人

關係土地 田 三反歩 畑 三町歩

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ東脊振村大字上三津東、上三津西、下三津東、下三津西、松隈、永山、西石動ノ七箇部落共有(名義ハ村有)ノ入會地ナルガ、數年前ヨリ此ノ七箇部落中四ヶ部落在住ノ前記十九名ノ者ガ入

會關係部落ニハ無斷ニテ潛ニ原野開墾ニ着手シ水田、桑園又ハ蔬菜園トシテ開墾地ヲ利用シ、現在既ニ其ノ面積數町歩ニ及ビタリ。其ノ間地元四ヶ部落ノ他ノ住民ハ此ノ事實ヲ全然窺知セザルニハ非ザリシモ情義上默認シ來リタルモノナルガ、最近ニ至リ此ノ事實ヲ入會地ノ他ノ關係部落タル三部落ノ住民ガ窺知スルトコロトナリ、俄然問題化シ共有入會地ノ或特定人が獨占スルコトノ不當ヲ詰リ、他ノ未開墾地ト併セテ本件入會地全部ヲ開墾關係四箇部落ニテ買收スルカ、或ハ開墾田ヲ即時元ノ原野ニ還元方ヲ要求シ來リタルヲ以テ、地元四箇部落ニ於テモ愈々公式ニ問題化シ七箇部落ハ合シテ開墾者側ニ對シ強硬ナル抗議ヲ申出デタリ。開墾者側ニ於テハ此ノ抗議ニ遇ヒ俄ニ當惑シ急遽對策ニ付協議シタル結果、開墾地ヲ一時ニ開墾者ニ於テ買取ルコトハ資金ノ關係上不可能ナルニ付、本件開墾地ヲ七箇部落トノ間ニ新ニ小作契約締結セシメラレ度ク七箇部落ニ交渉シタルモ、小作料小作期間其ノ他ノ小作條件ニ關シ協定成ラズ遂ニ小作官ニ調停申出デタリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ハ八月二日開墾關係代表者ヲ縣廳ニ招致シ實情ヲ聴取スルト共ニ本件調停上ノ資料蒐集ニ努メ、越ヘテ八月十四日現地ニ出張入會七箇部落關係當局者(各部落區長、村會議員、其他有力者等)數十名及開墾關係當事者十九名ヲ村役場ニ召集シ村長立會ノ上調停ニ着手セリ。
先ヅ兩當事者ノ主張ヲ聴取シタルニ開墾者側ハ本件土地ハ是非小作契約セシメラレ度ク其ノ條件ト

シテ小作料ハ反當金三圓五十錢トシ小作期間ハ可成長期ヲ希望セルニ對シ、入會關係者側ハ小作料反當二俵トシテ小作期間ハ三ヶ年毎ニ入札更新方ヲ主張シ、兩者主張ノ懸隔相當甚シキタメ一先ヅ現地ヲ檢分スルコトトシ、各當事者立會ノ上一劃毎ニ檢分シ小作官ノ裁定ノ資ニ供シタリ。而シテ入會關係者ニ對シテハ小作期間ノ點ニ付開墾地ノ作物(大部分ハ桑園)等ノ關係上短期ノ契約ハ不可能ナルヲ説キ小作料ニ付テモ相當減額方從應シタルモ、入會關係者側ノ主張ニ應ゼザレバ直ニ元ノ原野ニ還元セラレタシト強要シ妥協ニ應ゼズ、一面開墾者側ハ不法ニ本件土地ヲ開墾シタル弱身ト現在トナリテ本件土地ト離ルルコトノ苦痛アルタメ非常ニ弱者ノ地位ニアリ萬事小作官ノ裁定ニ一任セリ。仍テ小作官ハ専ラ入會關係者側ノ説得ニ全力ヲ注ギ徹宵斡旋ニ努メタル結果、翌十五日午前四時ニ至リ漸ク小作官ノ裁定ニ一任スル迄ニ讓歩セシメタリ。

仍テ小作官ハ入會地ノ性質、開墾者ノ生活状態、農業經營狀況、開墾地ノ位置、土質、作物ノ作柄、當該地方一般桑園、水田ノ收支狀況等各種ノ事情ヲ考慮シ左記裁定案ヲ發表シタルニ、双方異議ナク之ヲ承認シ圓滿ニ調停成立スルニ至レリ。

結 末

入會關係七箇部落(上三津東、上三津西、下三津東、下三津西、松隈、永山、西石動)ヲ債權者トシ、

土地利用關係者(高尾某外十八名)ヲ債務者トシテ兩者間ニ契約スルコト左ノ如シ。

- 一 賃貸借契約期間ハ昭和八年八月十五日ヨリ昭和十八年八月十四日マテ滿十ヶ年トス
- 二 賃借料ハ一反步當リ四斗俵一俵ノ割合トス
- 三 賃借料ハ毎年度分ヲ其ノ翌年一月三十一日迄ニ入會地管理者宅ニ持參支拂フモノトス
- 四 若シ右小作料ノ現物ヲ以テ支拂フコト不能ノ場合ハ右納期ニ於ケル福岡日日新聞記載ノ佐賀縣四等米ノ時價ニ換算シタル金錢ヲ以テ支拂フモノトス
- 五 本件關係土地ハ後日改メテ正確ナル實測ヲナシ土地臺帳ヲ作成スルモノトス
- 六 其ノ際ノ測量費用ハ全額債權者側ノ負擔トス
- 七 本件協議ノタメ要シタル債權者側ノ諸費用ハ債權者、債務者双方ノ折半負擔トス

神崎郡東脊振村大字戰場千五百三十六

原野十三町八反八畝十二步

同郡同村大字同千五百四十五

原野十一町四反二畝十八步ノ内

土地利用地約三町三反餘步

六、**二七 宮崎縣宮崎市松橋町一丁目** (小作地轉貸反對)

爭議發生 昭和八年三月五日

調停着手 昭和八年三月二十三日

解 決 昭和八年三月二十四日

關係人員 地主 一人 小作人 一人 轉借人 十五人

關係土地 田 一反一畝十一步

(一) 爭議ノ經過

小作人ハ本件土地ヲ約十ヶ年間不定期ニテ小作シ來リタルガ偶々當時宮崎市ニ四十五日ノ期間ヲ以テ同市主催ノ産業博覽會開催サルルコトトナリ、本件土地ハ右博覽會場ノ入口ニ位置シ賣店敷地トシテ高額ノ賃料ニテ轉借希望者ヲ生ジ、茲ニ於テ小作人ハ極ク一時的ノモノナリトノ理由ノ下ニ地主ノ承諾ヲ得ズシテ十五人ニ對シ轉貸ヲ行ヒ、轉賃料約三百圓ヲ收得スルコトトナリ、一方轉借人ノ方モ

續々賣店ノ施設ヲナシ營業ニ着手スルニ至リタルガ、之ヲ知リタル地主ハ極度ニ憤慨シ暴力ヲ以テ十軒ノ賣店ノ周圍ニ鐵條網ヲ張り繞ラシ且賣店ニ對シ器物毀棄ノ行爲ヲナシ營業ヲ不可能ナラシムルニ至リタリ。斯クテハ轉借者タル賣店側十五人ニ於テモ素ヨリ默示スルモノニアラズ、地主側ノ不法行爲ニ憤慨シテ事件ノ取調ヲ警察署ニ陳情スルト同時ニ、轉貸契約ヲナシタル小作人ニ對シテハ速カニ事件ヲ解決セラレタシト嚴談ヲナスニ至リ、茲ニ切迫シタル且複雑ナル小作爭議發生シタリ。

(二) 調停ノ經過

前項記載ノ經過ヲ辿リテ事態漸ク險惡トナルニ至ルヤ小作人ハ極度ニ狼狽シ只管小作官ノ調停方ヲ歎願シ來リタルノミナラズ、本件ハ單純ナル小作爭議ニ非ラズ重大ナル社會問題ヲモ包含シ一日モ早ク解決セザレバ更ニ重大ナル事態ヲ發生スベシト思料シ小作官ノ調停着手ニ至レルモノナリ。而テ本件ニ於テハ地主、小作人間ノ關係ト、小作人、轉借者間ノ關係ト二方面ニ分タレ地主、小作人間ノ方ハ兩者共其ノ主張強ク殊ニ地主ニ於テハ小作人ガ地主ニ無斷ニテ土地ヲ特殊ノ目的ニ轉貸シ而モ不當ノ利益ヲ貪ラントスルハ言語同斷ニテ小作人ニ於テ收受スル轉賃料ハ全部地主ニ引キ渡スニ非レバ賣店ノ周圍ニ張り繞ラセル鐵條網ハ之ヲ撤去シ得ズト強硬ニ主張セリ。小作人、轉借者間ノ關係ニアリテハ轉借者ハ今回ノ事件ニ依リ其ノ受ケタル損害ハ少カラズトシテ轉賃料減額ノ申出デヲナスニ至リタリ。斯クノ如ク事件ハ特殊、急迫且複雑ナリシタメ如何ナル方針ニテ調停スベキカニ相當惱マサレ

タルノミナラズ調停其ノモノニテ多大ノ困難ヲ感ジタルモ、三月二十三日ヨリ二十四日ニ亘リ不眠不休ニテ樽俎折衝ノ結果、各關係共次項結末ノ如ク圓滿解決ヲ見タリ。

(三) 結 末

(イ) 地主小作人間ノ關係ニ付テハ轉借料三百圓ヲ大體折半トナル程度ニ分配スルコトトナリタリ
(ロ) 小作人轉借者間ノ關係ニ付テハ別段轉借料ノ減額ヲナスコトナク未徴收轉借料ノ徵收期限ヲ適當ニ延期スルコトトナリタリ

二八 鹿兒島縣熊毛郡中種子村及南種子村 (小作料値上反對)

爭議發生 昭和八年十二月五日

調停着手 昭和九年一月二十三日

解 決 昭和九年一月二十四日

關係人員 地主 三人 小作人 三百八十二人

關係土地 畑 二百五十町歩

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ元深川土地株式會社ノ所有ナリシモ競賣ニヨリ前記ノ地主三人ガ山林原野、畑、宅地等

約千町歩ヲ金七千餘圓ニテ競落シタリシガ、土地會社ト協議ノ結果金二萬圓ヲ支拂ヒ三人ニテ三和商會ヲ組織シ、而シテ小作人等ニ對シ十二月五日附ヲ以テ從來ノ小作料ヲ五割乃至二十割ニ値上シ、昭和八年度ノ小作料ハ値上額ヲ以テ十二月二十八日限り納付スベク通知シタルタメ、小作人等ノ驚愕一方ナラズ各部落別ニ寄々協議ノ結果絕對ニ應ゼザルコトニ決議シタルモ、地主ガ高利貸ナルタメ如何ナル手段ニ出ヅルヤモ測ラレザルニヨリ一應村長ニ申出デ調停ヲ依頼スルコトトシタリ。

(二) 調停ノ經過

村長ハ事態容易ナラザルヲ憂ヒ各部落別ニ小作人代表者ヲ役場ニ招集シ其ノ實情ヲ聽取シタルニ小作人等ノ最モ不滿トスル所ハ

- 一 地主ニシテ如何ナル事情アルモ何等豫告ナク小作料ヲ五割乃至二十割ニ値上シタルコト
- 二 新開墾地ニ對シ從來ノ慣行タル一箇年免除ヲ無視シ初年ヨリ小作料ヲ課シタルコト
- 三 地主ノ小作料値上基準ハ地質竝ニ地理等ヲ考慮セズ一率ニ定メタルコト
- 四 小作期間ヲ從來ノ四月ヨリ翌年三月迄ヲ一月ヨリ十二月迄ニ改メルコト
- 等ニシテ右ニ對シ小作人ノ希望トシテハ
- 一 小作料ハ暫ク從來通リトスルコト
- 二 新開墾地ノ小作料ハ初年度ヲ無料トスルコト

- 三 地主ノ値上ヲ止ムヲ得ザルモノトセバ土質ヲ十分調査シテ舊小作料ノ二割位ノ値上ニ留ムルコト
- 四 期間ハ從來通リトスルコト
- ナリシヲ以テ村長ハ地主ノ意見ヲ聽キ相當善處スベキ旨ヲ述ベテ一應解散セシメ、更ニ地主ヲ役場ニ招集シ其ノ主張ヲ聽取シタルニ
- 一 小作料ヲ値上スルニ當リ實地踏査シタル際全小作人ニ集合スル様通知シタル爲豫告ナクシテ値上シタルモノニアラズ。又今回ノ値上ハ舊地主ノ小作料極端ニ低廉ナリシタメ急激ニ値上シタリト雖決シテ一般小作料ヨリ高率ナラズ。此ノ中大字中田、長谷ハ舊小作料ノ四倍ヲ値上シタルモ之ハ面積ニ於テ加減シアルタメ實際ハ三倍ノ値上ヲシタルモノト同ジ状態ナリ。新地主トシテハ本件土地ニ對スル公租公課竝ニ土地管理料ニ充當スル費用ノ程度ニ値上シタル次第ナリ
- 二 從來ハ開墾ト稱シテ立木ノミヲ伐採シテ賣却シテ跡ヲ放置スルノ弊アリシヨリ初年度ヨリ小作料ヲ徵收スルコトトセリ
- 三 土質ノ點ニ就テハ査定スルノ要アルヲ認ムルニヨリ將來改正スルコトトス
- 四 小作期間ハ一年ヲ兩年ニ跨ルハ不便ヲ感ジ一月ヨリ十二月迄トシタルモノナリ

右ノ如キ事情ナリシタメ村長ハ地主ニ對シ此ノ際相當慎重ナル態度ヲ以テ善處セラレタシト勸告シタルニ地主ハ之ヲ約シ一先ヅ解散シタリ。

其ノ後地主小作人ニ於テ直接交渉シタルモ中田、長谷、郡原、古房部落ハ容易ニ妥協成立スルニ至ラザリシ爲、中田部落ニハ獎勵金トシテ金四十圓、長谷部落ニハ燒酒竝ニ素麵數箇箱ヲ送り解決セントシタルニ、中田部落ハ之ニ應ジタルモ長谷部落民ハ我々貧困ナルヲ侮リ物品ニヨリテ釣ル等ノ手段ハ輕蔑モ甚シキモノナリトシテ反ツテ激昂シ物別レトナルニ至レリ。其ノ後地主ハ小作人等ニ對シ小作料ヲ年内ニ納入セザレバ法律ニ依リテ制裁スベシトノ威喝ヲ浴ビセ、小作人等ハ平素彼等ノ債務者ニ對スル所業ヲ見レバ小作人トシテモ如何ナル慘禍ニ遭フヤ計リ知レザル驚怖心ヨリ長谷部落ヲ除ク外ハ血ヲ吐ク思フシテ辛ジテ半額ヲ工面シテ納付シタルモ、殘ル半額ハ地主ノ要求通り納付シ難キニヨリ之ガ減額方ヲ再ビ村長ニ陳情シタル爲、村長ハ小作調停委員ト計リ其ノ調停申込部落タル古房、郡原、竹屋野、中田、長谷ノ五部落ノ小作人二、三名宛ヲ役場ニ招致シ其ノ主張竝ニ要求ヲ聽取シタルニ主トシテ土質ヲ充分調査シ之ニヨリテ小作料ヲ等級別ニ定メルコト等ヲ要求シタル爲、村長及調停委員ハ左ノ調停案ヲ作成シ地主ニ謀リタル處表面鎮靜シタル状態ナリキ。

- 一 小作料完納者ニハ小作料ノ一割ヲ賞與トシテ交付スルコト但シ既ニ發表シタル中田(四十圓)長谷(二十圓)部落ハ其ノ儘トス

二 小作期間ハ四月ヨリ翌年三月迄トスルコト

三 八年度ノ新開墾地ニハ甘藷ヲ栽培シタル處ニシテ納入濟ノ分ニ對シテハ第一項ノ賞與金ヲ交付シ
昭和九年度ヨリノ新開墾地ノ小作料ハ翌年ヨリ徵收スルコト、但シ地方一般ノ慣例ニ依ルコト

四 九年度以後ノ小作料ハ地主小作人ニ於テ協定スルコト

以上ノ條件ニテ表面解決シタルモノノ如クナルモ内容ハ決シテ然ラズ依然トシテ對峙ノ状態ナリ
キ。之ヲ知リタル小作官ハ現地ニ出張シ村長竝ニ小作調停委員ニ付詳細ナル調査ヲナシタルニ、此ノ
儘解決シタルモノトシテ放置スルトキハ不詳事件發生スル虞アリシヲ以テ、村長、地主等ヨリ小作人ニ
付實情調査ノ希望アリシタメ、各部落ヨリ小作人代表一、二名宛ヲ中種子村役場ニ招集シ各々其ノ意
見ヲ聽取シタルニ、八年度ノ小作料ハ支拂能力アルモノ其ノ他二、三ノ者ハ調停者ノ顔ヲ立ツベク小作
料ヲ納付シタルモ、殘餘ノ小作人ハ依然トシテ不平ヲ唱ヘ居リ、既ニ小作料ヲ支拂ヒタル小作人モ昭
和九年度以降ノ小作料ヲ速ニ決定セラレザレバ安ンジテ耕作スルコトヲ得ザルニ依リ小作官ノ來リシ
ヲ好機トシ、地主小作人及村當局、支廳ヨリ希望モアリシタメ調停ヲ試ミタル處、小作人トシテハ出
席九部落中一部落(郡原)ヲ除クノ外
一 小作料ハ四割値上スルコト
二 土質ヲ調査シテ小作料ニ高低ヲツケルコト

三 新開墾地ノ小作料ハ一箇年無料トスルコト但シ立木アルトキハ其ノ立木代ハ適當ニ買受クルモ可
ナリ

四 小作料ハ年二回拂トスルコト

右ニ對シ地主ハ

一 小作料ハ小作人ノ主張スル四割程度ノ値上ニテハ公租公課及人件費ニ不足スルタメ應ズルコト能
ハズ八年度ニ定メタル五割乃至二十割ノ値上額ニ對シ一割ノ賞與金ヲ交付ス

二 土質ヲ調査ノ上最高二圓トシテ小作料ヲ定ム

三 開墾地ハ一箇年無料トスルモ可ナリ然レドモ各部落ノ他地主ノ例ニ慣フコト

四 將來開墾ハセシメズ

以上ノ如クニシテ將來ノ小作料額ニ付地主小作人ノ主張ニ甚シキ懸隔アリシ爲、地主ハ小作セシメ
ズト云ヒ小作人ハ横暴モ甚シキモノナリトテ相當險惡ナル状態ナリシヲ以テ、小作調停ノ申立ヲナス
ベク德憑シタル處、大體ニ於テ之ニ共鳴シタルモ地主ハ之ヲ嫌ヒ多少讓歩ノ色見ヘタルニヨリ、更ニ
調停ヲ進メタル結果二十番、郡原、大平、竹屋野、油久、古房ノ六部落ノ代表者ハ左ノ案ニ應ジテ解
決シタリ。

(三) 結 末

調停條項

- 一 昭和九年度ヨリ小作料ハ反當最高二圓、最低五十錢ノ範圍ニ於テ充分ナル土質、地理ノ調査ヲナシ之ニヨリテ小作料ヲ定ムルコト
 - 二 小作料ノ納期ハ部落別ニ一回若クハ二回拂トスル様協議スルコト
 - 三 新開墾地ノ小作料ハ原則トシテ初年度ハ徵收セサルコト、但シ立木アルトキハ小作人ニ於テ從來ノ慣行ニヨリ買取ルコト
 - 四 第二項ノ小作料ハ附近地主ノ慣行ニ從フコト
- 殘ル長谷、中田ノ兩部落ハ地主トノ感情頗ル惡化シ居タル結果、他部落代表者ヲ解散セシメ置キ徹宵調停ヲ進メタルモ解決容易ナラサリシカ小作官ノ熱心ナル調停ノ勞ヲ多トシ、午後十二時ニ至リ漸ク左記ノ如ク解決スルニ至レリ。
- 一 中田部落ハ昭和九年度ヨリ一率ニ反當金一圓六十五錢トスルコト
 - 二 長谷部落ハ昭和九年度ヨリ一率ニ反當金一圓三十錢トスルコト
 - 三 小作料ノ納期及納入方法ハ附近ノ地主ノ例ニヨルコト



4115
48

37555

購
入

衆議院
13. 3. -9
圖書館

